

2 防災アプリの体験学習 ～社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」(5年)～



札幌市は情報ネットワークを活用して災害に備える取組を始めている。危機管理対策室がサポートしている「札幌市防災アプリ『そなえ』」である。本校では、危機管理対策室の方をお招きし、開発の意図やアプリの内容を説明していただいた後、実際にタブレットを使用した。

掲示板の写真にタブレットをかざし、災害が起こる危険性がある場所については被害の様子を映像でイメージできるようにした。さらに、なぜ被害が起こったのか友達と交流することで、危険を予測したり災害時における適切な行動を考えたりすることができた。



3 安全管理の取組

子どもの安全を守るために、個人情報の保護に配慮しつつ教職員全体で情報を共有したり対応したりできるように、下記のように職員室環境を整えた。

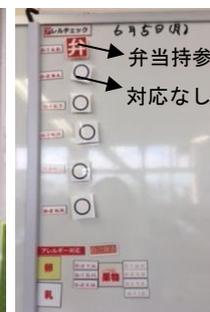
(1) 職員室内の区分け…個人情報管理区域の設置・教職員専用掲示板・緊急持ち出しカゴ

職員室の片側半分に個人情報に関わるものを整備し、教職員以外は立ち入れないようにした。また、そこには、救急箱、児童調査票や個別の対応が必要な児童の情報をファイルしたものを一つにまとめた緊急持ち出しカゴや緊急情報の共有化を図る掲示板(名簿事故等の経緯を時系列に書いていく等)を置き、素早い情報共有と緊急時対応ができるようにした。



(2) 職員室中央のホワイトボード…出欠状況・アレルギー対応

ホワイトボード掲示板には普段校務支援システムのスケジュールがプロジェクターによって映し出されている。運動会前にはそこに1時間ごとの天気を映し出したり、保護者引取訓練の際には時程や指導内容を表示したりと重要な情報を視覚化して共有できるようにしている。また、その横には、各学級の欠席・遅刻・早退する子どもの氏名を色分けして表示している。理由も追記しているので、担任との情報交流や学校全体の状況把握にも役立つ。さらに、アレルギー対応が必要な子どもとその対応の仕方についてマグネットで記し、全ての教員が教室に入った際に対応できるようにしている。



(3) トランシーバーと担任外の動向表

校長・教頭、担任外、養護教諭は常に携帯するようになっている。校内で緊急事態が起こった場合は、その状況を職員室へ伝えたり、対応の要請をしたりする。そうすることで、近くにいる職員あるいは養護教諭が素早く現地に向いて対応したり、職員室からは関係機関に連絡をしたりすることができる。担任外の動向表を職員室中央に掲示しておくことも素早い対応に役立つ。



Ⅲ 研究の成果と課題

安全マップ作りの取組や防災アプリを活用した体験的な学習は、子どもが自ら安全に生活しようとする態度を育むことにつながった。また、安全管理の取組も職員間の情報共有や素早い対応につながった。今後も、地域や関係機関との連携を図りながら取組を継続し、子ども一人一人の実践力を高めていきたい。